

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0313 NO110

校長 伊波喜一

卒業の 証書手渡し 繰り返す 礼法深め 心伝えん

卒業証書授与の練習が始まっている。作法に則り式を進めていくために、礼法はある。普段の生活の中では取り立てて意識することはないが、礼がなかったら私達の生活は、随分ギクシャクしたものになってしまう。証書の授与は卒業式のハイライトである。舞台の中央で、衆目を集めての一挙手一投足である。緊張するな、という方が無理であろう。緊張しないための特効薬はどうもなさそうで、プロの唸家や音楽家でも、初日は緊張するらしい。盛年でも緊張するのだから、年端もゆかぬ小学生ならばなおのことであろう。狂言の練習だが、まだ3つ4つの子どもに、技が身につくまで練習させていた。子どもが泣こうがぐすろうが、やるべきことをやれるようになるまで、稽古の手を緩めなかった。芸の世界はつくづく厳しいものだと思う。幸い、子どもは集中力があるので、繰り返すことで芸が身につく。この場合も成功体験が大事で、上達を実感した経験が次の段階へ進む意欲づけとなる。江古田の子ども達が練習を重ねて自信を深め、卒業式本番で力を発揮できることを願っている。